

「週刊文春」連載時に大反響！ 著者1年9ヶ月ぶりの新刊

内澤 旬子 著

文藝春秋刊 5月24日発売

『ストーカーとの七〇〇日戦争』



ネットで知り合った男性との交際から8か月。ありふれた別れ話から、恋人は突然ストーカーに豹変した—

執拗なメール、ネットでの誹謗中傷……さらには味方の警察、弁護士との高ストレスなやりとりまで、SNS時代特有のストーカー犯罪の実態と被害者のリアルな生活を明かした戦慄の体験記。

女性の泣き寝入りが非常に多いストーカー犯罪問題の核心と日本の諸制度の穴に内澤旬子さんが挑んだ異色のノンフィクション。

誰にでも起こり得るSNS時代の闇がここに。

〈ストーカー規制法が定める「つきまとい等」の行為〉

- ・あなたを尾行し、つきまとう。
- ・あなたの行動先(通勤途中、外出先等)で待ち伏せする。
- ・あなたの行動や服装等を電子メールや電話で告げる。
- ・あなたが拒否しているにもかかわらず、携帯電話や会社、自宅に何度も電話をかけてくる...etc

文藝春秋刊 本体1500円+税 352p



プロフィール

内澤 旬子(うちざわ・じゅんこ)

1967年、神奈川県出身。文筆家、イラストレーター。2011年、『身体のいいなり』で講談社エッセイ賞を受賞。著書に『センセイの書齋 イラストルポ「本」のある仕事場』『世界屠畜紀行』『おやじがき 絶滅危惧種中年男性図鑑』『飼い喰い 三匹の豚とわたし』『内澤旬子のこの人を見よ』『捨てる女』『漂うままに島に着き』などがある。

各媒体にてぜひ本書をお取り上げいただければ幸いです。TV・ラジオ出演、著者インタビュー等のお申込みは気軽にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先 文藝春秋 プロモーション部 03-3288-6142 pr@bunshun.co.jp